

M 氏邸訪問記(2017.6.7)

1. はじめに

M 氏邸訪問はしばらく時間があきましたが、[前回の訪問](#)以降のチューニングの成果を確認させていただくということで、ST 氏とともに訪問してきました。また、ST 氏には当方の Sonica DAC 導入後の進捗について報告し、今後の拙宅ならびに A 氏邸での接続確認と試聴計画について打ち合わせさせていただきました。

2. M 氏邸のシステムの概要

M 氏邸のシステムは前回の訪問以降、大きな違いはありませんが、電磁波吸収シートなど、いろいろなチューニングを施されたとのことでした。電源ケーブル周りのチューニング状況を添付します。



3. M 氏邸のシステムの試聴経過



まずは、ギトリスとクライスラーのアナログ盤と CD を比較しながら聴かせていただきましたが、これまでのピアノに特化したような音から、追加チューニングの結果で

弦などの表現力も広がってきたようで、ギトリスとクライスラーのボウイングの特徴などが良くわかるようになってきました。ホロビッツや江口玲の NY スタンウェイも相変わらずでした。



CD は Marantz SA-S7S1 で再生でしたが、M 氏によれば GPS-777 から 88.2KHz のクロックを入れるのが最適とのことでした。拙宅では SA11-S2 には 176.4KHz のクロックを入れるのが通例です。ST 氏が盛んに SA-S7S1 の再生音に感心されていたので、実は GPS クロックの効果が大きいと言うことでクロック有り無しの効果を繰り返し聴き比べていくと、弦の艶などの向上が顕著で ST 氏もクロックの効果に関心を寄せられていました。



さらに、ST 氏にお貸ししていた CD 用の High Definition Disk Case の効果が今一つはつきりしなかったということで、そのテストに入りました。M 氏が準備されたのは、お馴染みのグレングールドのゴールドベルク変奏曲の CD2 枚で、1 枚は処理、1 枚は未処理で聴いてみたところ、処理によりエッジが取れて聴きやすくなった、ディテールがよく分かるようになったというようなことでした。加えて、グールドのハミングも明瞭に聴き取れるようになったと感じました。M 氏にはアナログ用の High Definition Disk Case をお貸ししていたのですが、同様の印象ということでした。

この後、ST 氏が普段聴いておられる CD とアナログ盤をかけて、自邸と M 氏邸のシステムとの比較をされていました。演奏会で聴いてきた、当方の古楽アンサンブルの CD を 3 枚ほどかけていただきましたが、以前よりディテールの再現が向上したとの印象を持ちました。

AA 誌の付録の MQA-CD もかけてみて、感想を聴きましたが、MQA のデコーダー機能

のない CD プレイヤーでは単なる CD だけのことなので、音質上のメリットはなさそうだということになりました。

ST 氏と打ち合わせた Sonica DAC 試聴計画の進捗については、拙宅での試聴報告とともに別途報告させていただきます。



High Definition Disk Case



ゴールドベルク変奏曲

4. まとめ

M 氏のさらなるチューニングの効果が確認でき、ST 氏には GPS クロックの効果や High Definition Disk Case の効果をご理解いただけたと思います。

以上